

1 題材名 衣服の手入れの方法を知ろう

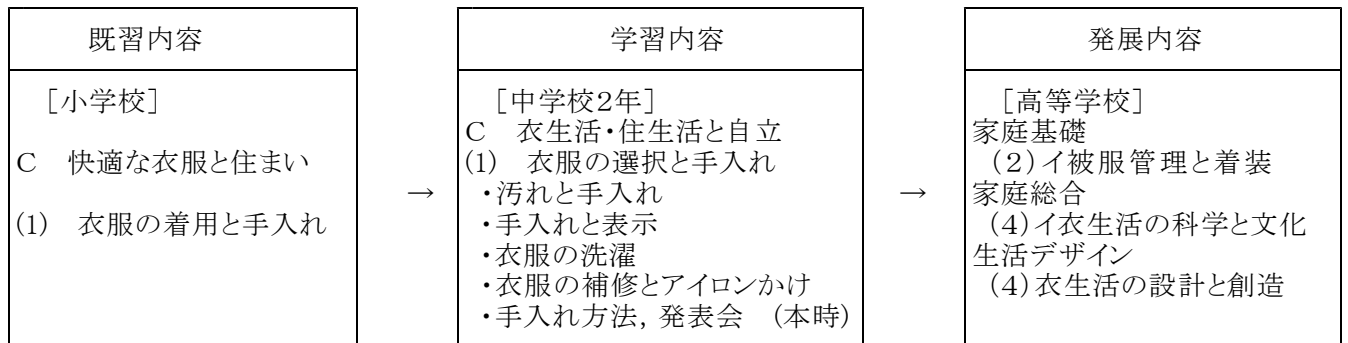
2 題材について

(1) 題材観

科学技術の進歩と経済の発展は、私たちの衣生活においても物質的な豊かさをもたらした。色、デザイン、素材など選択肢が広がって、容易に購入することができるようになった。その一方で、家庭で布を購入して衣服を製作することは減少している。また、かつての着物のように、何度か違う用途にリフォームしてから、最後の雑巾まで使って捨てるということも少なくなっている。繕って着る、ということもあまり見られなくなっており、反対に破れた感じの物を流行として取り入れる傾向が見られる。古くなったり、着られなくなったら、安易に捨てたり、買いなおせばよいという考えは、すでに購入前から手入れなどの条件が軽視されることにもつながっている。この大量消費型の生活や多様化した価値観がある現状であっても、何が本当の豊かな衣生活なのかを見直していく必要があると思う。本校がある地域にも、速く、安く、ファッショナブルな衣料品を提供するファストファッションの店舗があり、利用する生徒も多くいる。その結果、安価な衣服を次々に購入し、各家庭における衣服の所有数は増えている。このように、衣服は製作するもの、手入れを丁寧に行い大切に着用するものから、購入しやすいものへと変わってきている。

そのような環境の中から中学生が衣服を選ぶとき、流行やデザイン、他の人に映る自分の姿を意識して購入する場合が多く見られる。また、毎日衣服を着用し快適に過ごすためには、洗濯やボタン付けなどの手入れや補修が必要になってくる。ところがライフスタイルの変化による家事時間の短縮、機械化で、スイッチ一つで洗濯できたり、形状記憶タイプの衣服の登場で、アイロンをかけたたりすることも少なくなり、衣服の手入れや補修については、家族任せになっている傾向がある。こうした状況の中で日常着の手入れに関する基礎的な技能や知識を身に付けさせ、衣服材料や汚れに応じた手入れと適切な補修を自らの手でできるようになることは、健康で快適な衣生活を主体的に送っていく上で意義深いことだと考える。

(2) 指導内容の系統



3 生徒の実態について(35名)

(1) 学級集団の実態

男子18名、女子17名、計35名で、構成されている。本学級は明るく素直な生徒が多く、雰囲気も和やかであり、活発に授業に取り組む生徒が多い学級である。技術・家庭科での学習にも意欲的な態度で臨み、自分の意見を皆の前で発表できる生徒が多くいる。反面、発表を苦手としている生徒も数名おり、支援が必要である。また、教科によって授業に参加できない生徒もいる。技術・家庭科に関しては参加できているので、配慮が必要である。

(2) 題材に関わる実態

・調査結果

調査人数： 35名 調査実施日： 4月16日

- ① 衣生活への関心がありますか。
 すごくある 3名, ある 21名, あまりない 11名, 全くない 0名
- ② ブラシがけをしているか。
 よくしている 7名, 時々している 9名, あまりしていない 8名, 全くしていない 11名
- ③ しみ抜きをしているか。
 よくしている 0名, 時々している 2名, あまりしていない 11名, 全くしていない 22名

- ④ 洗濯をいつも自分でしているか。(ジャージ, 体操服)
よくしている 2名, 時々している 4名, あまりしていない 18名, 全くしていない 11名
- ⑤ セーターを自分で洗濯しているか。
よくしている 0名, 時々している 3名, あまりしていない 5名, 全くしていない 27名
- ⑥ アイロンがけをいつも自分でしているか。
よくしている 0名, 時々している 6名, あまりしていない 10名, 全くしていない 19名
- ⑦ ほころび直しができるか。
よくできる 1名, できる 3名, あまりできない 17名, 全くできない 14名
- ⑧ ボタン付けができるか。
よくできる 5名, できる 6名, あまりできない 17名, 全くできない 7名
- ⑨ 給食の白衣の手入れは自分でしているか。
よくしている 3名, 時々している 7名, あまりしていない 11名, 全くしていない 14名
- ⑩ その他, 衣服の手入れでいつも自分でしていることは何か。(上記のアンケート以外で複数回答)
ほこり取り(粘着テープ等) 9名, 洗濯物をたたむ 5名, タンスに収納 4名
毛玉取り 1名, 洗濯物を干す 1名, 全くしていない 14名

・考察

学級の70%の生徒が衣生活に関心があることが分かったが実際に手入れを自分でやっている生徒は少ない。また, 小学校で学習済みのボタン付けやほころび直し(なみ縫い, 本返し縫い, 半返し縫い)もできないと感じている生徒が多く, 家庭での経験の少なさがアンケート結果に現れている。その他にも衣服の手入れを40%の生徒が全くしておらず, 家族に頼っていることが伺える。

指導にあたっては, 生徒の自分の生活を「自立度チェック表」で振り返らせながら, 課題意識をしっかりと持たせる必要があり, 身近な生活の中から, 生徒自ら課題を発見し, 解決を図る学習指導の工夫をすることが大切であると考えられる。

本題材では, 一般的な衣服を取り上げるのではなく, 生徒が学校で着用している制服やセーター, 体操服, 給食の白衣を取り上げ, 着用後に行う洗濯やアイロン等の学習へつなげることにより, 衣生活における基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせることにした。また, 衣服の手入れと補修については, 「自立度チェック表」を活用し, 家庭で繰り返し実践する場を設けて, 知識と技術の定着を図っていききたい。

4 題材の目標

- (1) 日常着の手入れの必要性を理解する。 <生活や技術への・関心・意欲・態度>
- (2) 取り扱い絵表示の意味を理解して, 適切な手入れ方法を選択できる。 <生活や技術についての知識・理解>
- (3) 衣服に合わせた手入れや補修ができる。 <生活を工夫し創造する能力> <生活の技術>
- (4) アイロンを安全に使う衣服の手入れができる。 <生活の技術>

5 指導計画(10時間扱い 本時は8時間目)

時間	学習内容	支援及び指導上の留意点	評価規準(観点)
2	日常着の活用	・目的に合わせた衣服を選び自分らしい着方を工夫できるよう支援する。	・衣服の着用, 選択, 手入れについて関心をもって学習活動に取り組む, 衣生活をよりよくしようとしている。(生活や技術への関心・意欲・態度)
6 本時 (6/6)	日常着の手入れ ・汚れと手入れ ・手入れと表示 ・衣服の洗濯 ・衣服の補修とアイロンかけ ・手入れ方法, 発表会	・既制服を選ぶポイント, サイズや取り扱い絵表示の見方がわかり, 衣服の適切な選択ができるよう支援する。 ・取り扱い絵表示の意味を理解して, 適切な手入れ方法を選択できるよう支援する。 ・衣服の傷み具合にあわせた方法で補修ができるよう支援する。 ・アイロンを安全に使う衣服の手入れができるよう支援する。	・衣服の着用, 選択, 手入れについて課題を見付け, その解決を目指して工夫している。(生活を工夫し創造する能力) ・衣服の着用, 選択, 手入れに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。(生活の技能) ・衣服の着用, 選択, 手入れについて理解し, 基礎的な知識を身に付けている。(生活や技術についての知識・理解)
2	環境に配慮した衣生活	・環境に配慮した衣生活について関心を持つように支援する。	

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 衣服の手入れの方法について、わかりやすく説明できる。 〈生活の技術〉
- ② 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ方法を知り、発表できる。 〈知識・理解〉

(2) 展開

学 習 活 動 と 内 容	時 配 形 態	指 導 上 の 留 意 点	評 価 (方 法)
<p>1 本時の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 快適に衣服を着用するためには、どのような衣服の手入れがあるだろうか。 </div>	5分 一斉	○ 前時までに調査した資料を提示し、学習意欲が高まるようにする。	
<p>2 手入れ方法の発表会を行い、様々な手入れ方法を知る。</p> <p>・安全に留意しながら実験や実演に取り組む。</p> <p>・グループ別に実験・実演しながら、わかりやすく発表する。</p> <p>① ブラシがけ(制服) ② しみ抜き(給食の白衣) ③ 洗濯の仕方(セーター) ④ アイロンのかけ方(制服・ワイシャツ) ⑤ まつり縫い(スカート) ⑥ ボタン付け(制服・ワイシャツ)</p>	30分 一斉	○ わかりやすく伝えるための準備ができていないか助言する。 ○ 発表者は大きな声ではっきりと、補助者は提示の仕方を工夫するよう助言する。 ○ やけどなど安全面について注意して発表するよう助言する。 ○ 実験や実演を協力して、わかりやすく発表するよう促す。また、発表者には賞賛の拍手を送れるよう促す。 ○ 実験や実演が正しく行われているか、明確な結果が出せているか支援する。 ○ 各グループの発表から分かったこと、手入れのポイントをワークシートに記入するよう助言する。	○ 衣服の手入れ方法についてわかりやすく説明しているか。(観察, 発表)
<p>3 手入れの仕方についての疑問点や質問事項について各グループに行き、解決に向けての手立てを確認する。手入れの仕方のポイントを再確認し、ワークシートにまとめる。</p> <p>・各グループの実験や実演の結果をみながら実生活に生かせるよう工夫してまとめる。</p>	10分 グループ	○ 各班の発表を聞いて、気になったことや疑問に思ったことを確認するよう促す。 ○ 衣生活の改善に向け、具体的に考えられるよう助言する。	○ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れ方法をワークシートに記入し、発表できたか。(発表, ワークシート)
<p>4 各班の発表内容を生かした上で、自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>・各班の発表をもとに、これからの衣生活を見直す。</p>	5分 一斉	○ 生徒の家庭の課題や気になったことや今後、自分の生活でやってみたいことを記入するよう促す。	○ 具体的に考え、発表することができたか。(発表, ワークシート)